第50回全国育樹祭　式典用ステージ　「バックパネル」デザイン提案

●第50回全国育樹祭大会テーマ

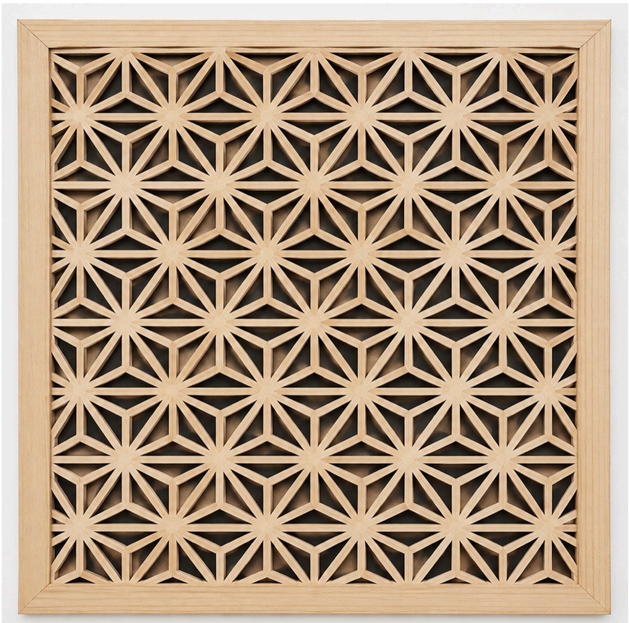
「緑育てる小さな一歩　未来に繋がる大きな希望」

◆コンセプト

今回の育樹祭のバックパネルには、秋田を代表する伝統文化である「なまはげ」を取り入れました。秋田には山や森林などの豊かな自然があり、昔から自然と関わりながら地域の文化が育まれてきました。なまはげもそういった秋田の文化の一つであり、山や木々などの自然との関わりが深い存在です。そこで、木々を育て、自然を未来へ残していく育樹祭と、自然と関わりながら受け継がれてきたなまはげを組み合わせることで、秋田らしいデザインにできると考えました。 背景には、秋田を代表するシンボルである鳥海山を描きました。鳥海山の雄大な姿を入れることで、秋田の豊かな自然や山の景色を表現しています。また、周囲にはスギの木々を配置し、育樹祭のテーマである「木を育てる」という部分を表しました。木々が成長していくことで、今ある自然を守るだけではなく、将来の世代へとつないでいくことにもつながると考えています。 なまはげ、鳥海山、スギの木々を一つの風景として組み合わせることで、秋田の伝統文化と自然のつながりを表現しました。なまはげは昔から地域で受け継がれてきた文化であり、鳥海山や森林は秋田の大切な自然です。育樹祭をきっかけに、これまで大切にされてきたものを守りながら、これから先の世代にも残していくことができればという思いを込めています。 今回のデザインを通して、秋田の自然の豊かさだけでなく、自然とともに受け継がれてきた文化にも興味を持ってもらいたいと考えました。秋田らしい「なまはげ」と「鳥海山」、そしてスギの木々を組み合わせることで、これまで受け継がれてきた文化と、これから育てていく自然を一つのデザインとして表現しました。

題名『自然を守り、恵みを享受するもの』

◆組子細工



バックパネルの枠組みには、秋田県能代市で受け継がれてきた組子細工の意匠を取り入れました。能代は「木都」とも呼ばれ、古くから木材産業が盛んな地域であり、秋田杉を使った建具や組子細工などの木工技術が受け継がれています。今回の育樹祭では、木を育て、森林を守り、未来へつないでいくことが大きなテーマとなっています。そこで、秋田の木材と深く関わってきた能代の組子細工を枠組みに取り入れることで、単なる装飾ではなく、秋田の木の文化や伝統を表現しました。なまはげや鳥海山、スギの木々と組み合わせることで、秋田の自然と文化、そして木に関わる伝統技術を一つのデザインにまとめています。

